

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2014.02.No198

2月号

目次

「建築士による家庭科住教育出張講座」報告……………	1
実行委員会～新委員長挨拶～……………	2
道士会の動き……………	5
青年・女性の窓……………	6
〔No.64 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会〕	
支部だより……………	7
〔札幌・古平・十勝〕	
information……………	8

URL <http://www.h-ab.com/>

北海道委託業務 地域における住教育実践推進業務 「建築士による家庭科住教育出張講座」報告

女性委員会 副委員長 工 藤 美智子 (札幌支部)

会誌「北海道建築士」8月号でお知らせしていました北海道委託業務の平成25年度分が、皆様のご協力により無事終了しました。開催状況や生徒の様子等は、後頁に講師体験報告として掲載しています。ここでは、家庭科教諭の講座前後の取組や出張講座関連事業が広がっている様子などをお伝えします。

＜北海道旭川凌雲高等学校 9月2日開催＞

3年生（ライフデザイン科）27名が対象でした。このクラスは、1年生の授業時に、シール式間取り教材で学習経験がある為、今講座の理解も早く、実質60分の実習ではほぼ完成しました。担当教諭からは、この時期は、現1年生が住居分野の学習中なので、学校購入の教材で実習するに当たり、今講座の講義スライドから「ゾーニング」「光・風」「動作寸法」「構造体」の部分を活用したところ「例年よりうまく教えることが出来、生徒の理解度も高かった」と報告いただきました。良く出来た作品を幾つか送っていただきましたので、感想とアドバイスを返送し次の授業に活かしていただきました。

＜北海道白老東高等学校 12月10日開催＞

2年生3クラスが対象でした。この学校は住居分野の授業に7単位を組んでいます。その4、5単位目に今講座を当て、翌週の6単位目に実習の続きを行い、間取り完成の喜び（満足感）を体験させることにしました。実習前後の授業内容も計画的に組まれていて、住居分野に積極的に取り組んでいる様子が伺えました。担当教諭は、「今日の講座で、実習の運び方や生徒の理解度などもわかったので、来年は今講座の講義スライドを利用して、授業に取り組んでみる。」とおっしゃっていました。

＜家庭科部会研究協議会実技講座 10月25日開催＞

渡島・檜山地区の高校家庭科教諭14名の参加でした。前半の講義は生徒に話す時のポイントを交えな

がら、後半の実習は生徒向けと同じ内容・時間で行いました。「生徒の気持ちになって実習でき、どこで悩みつまずか等も体験できた。難しかったが楽しかった。集中できた。」など意見をいただきました。

＜3箇所の出張講座でわかったこと＞

家庭科は「生活者を育てる」教科であることから、教科書の内容も多岐に渡ります。少ない教科時間の中で分野ごとの時間配分にとっても苦労しています。特に住居分野については、なかなか良い教材が見つからず、又、せっかく購入した教材をきちんと活用し生徒に指導できているのか不安をかかえている教諭が多い、ということがわかりました。

今講座を体験したことにより、「ゾーニングの考え方」「室内に取り込む光・風の意味合い」「動作寸法についての教え方」など、授業のヒントが得られたと、感想をいただいています。教科書にある断片的な情報を上手につなぎ合わせ伝えることで、住まいを理解し想像することが出来、そこから住居分野の楽しさと大切さに気が付いていただけたようです。

＜「北海道高等学校産業教育実践講座」講師派遣＞

今講座開催校教諭からの紹介で、北海道教育委員会主催の講座へ講師派遣依頼もきています。教諭に住居分野の実践講座を行える人材が少ないようです。

＜建築士会に求められていること＞

学校教育の場で、私たち建築士の職能を生かすということは、「賢い消費者」を育て「安心安全な未来を創る次の世代」を育てることにつながります。

今後、住教育の講師派遣依頼がどこから来ても、対応できる体制作りが、建築士会に求められています。今年度は、1クラス40名の生徒に対し講師6名で対応しましたが、今後は開催校が大幅に増える予定です。全道規模で派遣講師の養成が急がれますので、皆様には、更なるご協力をお願いいたします。

総務委員会

新米の総務委員長
ですが

委員長

西岡 誠 (札幌支部)



建築士会での活動では日が浅い自分ですが、このたび総務委員長の大役を仰せつかることとなり、身の引き締まる思いとともに、建築士会発展のために微力ながら貢献していきたいと思っております。

さて、経済は幾分好転し、北海道の建築業界にも少し良い風が吹いているように思います。

工事量の増加は日々の仕事を忙しくしますが、いつまた景気が減速するかとの不安感から、新規雇用を躊躇せざるを得ないというところが実態ではないでしょうか。また新規雇用をと望んでも、熟達した建築士の方々はより仕事の多い本州などに行かれています。新たに建築士となろうとする若い方々も経済が冷え切っていた状況が長かったため、かなり減ってきているように思います。

それでいながら建築士を取り巻く状況は、偽装問題に端を発し、その責務のみが日増しに増大し、建築士としての社会的権利は置き去りにされているように思います。

建築に携わるといことは責任があると同時に、こんなに面白いんですよ、こんなにやりがいのあることですよと実務から発した言葉を多くの人々に届けることと、そしてその中の幾人かに建築士になってみたいと思ってもらうことも建築士会の活動かと思えます。

各委員会の方々は日々そういう活動をされています。総務委員会としましてはその活動を下支えする仕事ができたらと思っておりますので、今後とも建築士会皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。

事業委員会

技術講習会を
活用しよう

委員長

萩川 正人 (旭川支部)



はじめに、昨年度の事業委員会の所管事業において、会員各位・各支部関係者の皆様の御協力により、全て滞りなく遂行できました事を、前任中野委員長はじめ事業委員を代表いたしまして、謹んで御礼申し上げます。

事業委員会の活動としましては、1級建築士受講者講習と建築技術講習会の開催がメインの事業ですが、1級建築士受講者講習は諸事情により一旦休講する事になりました。受講者こそ少なかったのですが、大変わかりやすい講習と言って頂いていたのに大変残念です。

建築技術講習会は昨年より開催方法を変えて、委員会でテキストの作成を行い、講習会は支部でインシアチブを持ち開催するように変更しました。テキストは支部で購入してもらいますが開催場所や日時については各支部の都合の良い時に開催する事が可能になり、参加人数の増加とそれによる収益が見込む事ができ、支部の活動の活性化ならびに、会員のCPD単位取得の機会の増加につながればと考えました。しかしながら、昨年実際に講習会を開催した支部は少なく、思っていたような成果は上げる事は出来ませんでした。今期も同じ運営の方法で行います。私たち事業委員も会員のニーズに合わせたテキストづくりを行っていくよう努力していく所存でありますので、是非沢山の支部で講習会を開催し、多くの会員の皆様に受講して頂きたいと思っております。そこで意見や要望など頂きながら皆様とともに建築技術講習会を良い物にしていきたいと思っておりますので、重ね重ねになりますが皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

情報委員会

活動の抱負

委員長

神田 光英 (十勝支部)



昨年まで岡田情報委員長の元、副委員長を務めさせていただき、今年より2年間委員長を仰せつかることとなりました。どうぞ宜しくお願いします。

委員会は、松崎常務理事と7名のメンバーで構成されています。

ホームページの企画・調整、会誌の発行が委員会の担当となります。

委員会事業のメインとなります。会誌の毎月発行化も、早4年目となります。お手元に届く「北海道建築士」により、皆様に有意義な情報をお伝えすべく編集作業を行っております。実行委員会・ブロック会の報告、支部だより、会員作品展、震災特集、出向委員からの連合会の活動紹介、等を取り上げてきました。

今年度は各実行委員会との意見交換、各事業への参加等、交流の場を設け、より新鮮で多くの情報を入手していきたいと思っております。

限られた紙面で編集し、いかに「わくわくする会誌」になるよう、新しい誌面づくりを目指し、委員会一丸となり取り組んで参りたいと思っております。その為にも、会員皆様のご意見、ご要望が欠かせません。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。



青年委員会 建築士(会)の ブランド力アップ

委員長

針ヶ谷拓己 (札幌支部)



前期に引き続き青年委員長(2期目)を務めさせていただきます、札幌支部の針ヶ谷です。どうぞよろしくお願いたします。

これまで青年委員会では、「建築士(会)のブランド力アップ」を目標に、建築士会活動の推進とその活動のアピールを進めてまいりました。今期も、その目標は変えず、前期同様に事業を進めてまいります。今年、景気回復という時代背景の中、資材不足・資材高騰・技術者不足・確認審査及び構造計算適合性判定の遅延などにより、工期が守れない・利益を生めない・入札不落といった問題が深刻化していることから、このような「建築産業界の諸問題」についての取り組みも進めていきたいと考えております。幸いに、建築士会には、設計・施工・行政・メーカーなど、建築のあらゆる職域の方々がいらっしゃいます。これからの建築産業界を担う青年建築士が集まる場で、「建築産業界の諸問題」について真剣に協議を行い、その問題をそれぞれの立場で共有し、解決の糸口を見つけていくといった、実務に直結する活動にもチャレンジしていきたいです。



↑こちらは、前期の青年委員会。今期青年委員会も、前期に負けない、最良の「チーム」を目指したいと思います。

女性委員会 力を合わせて

委員長

本間 恵美 (小樽支部)



平成26・27年は委員が減になり、10名の体制でスタートします。引き続き副委員長には工藤美智子さん(札幌支部)・金子ゆかりさん(釧路支部)、連合会委員は東道尾さん(札幌支部)です。

女性委員会の活動は、例年どおりに「全道大会分科会」の運営、「女性建築士の集い」の開催と、各ブロック活動の活性化を目指します。昨年行った「避難所運営ゲームHUG」が好評につき、カードを購入しました。自らの研鑽を深めると共に、社会貢献にも役立てたいと思います。各委員会、各支部にも貸出ししますので是非ご活用ください。

連合会の活動は、「全国女性建築士連絡協議会」への参加と活動発表に向けて準備します。「全国大会交流セッション」への協力と、高齢者タスクフォースで行う、「地域高齢者居住環境アセスメント等モデル事業」に参加します。北海道は25・26年度で10件のアセスメントを予定しています。

25年度より始まった、北海道建設部からの受託事業「**建築士による家庭科住教育出張講座**」が2年目に入ります。あと2年間で、全道14の総合振興局で最低1回の開催を目指します。そのためには、派遣講師となる建築士の養成が急務となります。26年は、道東を中心に建築士向けセミナーを開催しますのでご参加ください。

近年の活動は、全道および全国に広がりを見せています。若い委員の積極的な活躍が頼もしい女性委員会ですが、委員だけではなく、周りの方々とも力を合わせて活動して行きたいと思います。

まちづくり委員会 活動の抱負

委員長

佐藤 芳則 (苫小牧支部)



今年度よりまちづくり委員長を仰せつかりました佐藤芳則です。

今回初めてまちづくり委員会に席を置くわけですが、井上常務理事をはじめ経験豊富な委員の方々のお力をお借りしながら委員会を運営して参りたいと思います。

本年度のまちづくり委員会の活動は、地域のまちづくり活動に対する支援、高校生建築デザインコンクール・高校生「建築甲子園」の実施、景観整備機構の組織運営等の設立、全道大会旭川大会の分科会の企画・運営、日本建築士会連合会全国まちづくり委員長会議(まちづくり会議)への参加等です。

2月7日(金)・8日(土)の2日間にわたって開催される連合会のまちづくり会議では「まちづくり建築士と防災・復興～建築士が出来る復興活動」をテーマに、宮城県建築士会から「具体的な自力再建住宅建設供給の仕組み」づくりへの取り組みを紹介して頂き、まちづくりに必要な手法や諸制度に焦点を当てつつ、建築士による防災まちづくりの可能性を探っていきます。

更に、実際に復興まちづくりを行っている全国の建築士会から活動事例を紹介して頂き、事前復興模擬訓練により模型を使っのワークショップで実体験し意見交換をする予定です。

この会議への参加を第一歩として委員会活動を歩み始めますが、今後全道の会員の皆様のお知恵を拝借しながらまちづくりの手法や活動の情報を提供していければと思いますので新しい委員会を長い目で見守って頂ければと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

**被災地応急支援特別委員会
応急危険度判定
への参加を**



委員長
牛田 健一（札幌支部）

特別委員会としての2年目の活動がスタートします。

平成24年度は応急危険度判定士制度検討部会として、活動についての問題点の抽出を行い、建築士会としての対応策を検討し、翌年の特別委員会設置に繋いできました。

平成25年度は8名の委員が委嘱を受け、連絡網への登録とネットワーク作り、応急危険度判定の普及と訓練の実施に努めてまいりました。

9月に行われた恵庭での全道大会時に連絡網への追加登録を受け付け、5割増しの165名による「被災地応急支援ネットワーク」が北海道建築士会に整備される事に成りました。

平成26年は、「**実行の年**」と考え、応急危険度判定制度のマニュアル作りと建築士会としての応急訓練を行います。

すでに北方建築総合研究所から判定訓練資料の提供を受けており、春から夏にかけて道南ブロックと道東ブロックにおいて机上訓練を行う予定です。実地訓練とは多少異なりますが、訓練前説→訓練実施→判定解説を行った後、意見交換会を行い判定についての理解を深める事が出来るように考えていますので、多くの会員の皆さまの参加をお待ちしています。

「**大地震後の被災建築物から住民の安全を守るために**」の大きな目的が有る震災建築物応急危険度判定制度です。その**担い手は建築士**です。判定士認定講習を受け、登録を行い、そして北海道建築士会の「被災地応急支援ネットワーク」に登録し、仲間と一緒に活動する会員をお待ちしています。

**ヘリテージマネージャー特別委員会
ヘリテージマネージャー
養成講座開設に向けて**



委員長
山内 一男（函館支部）

1995年1月の阪神・淡路大震災、2011年3月の東日本大震災により多くの方が亡くなり、建物は倒壊、重要文化財の建造物や地域の建造文化財も被災しました。

日本建築学会は建築士会に歴史的建造物の現地調査員派遣要請のお願いをしましたが、地域の歴史的建造物に係わる人の少なさや地域の建築的文化財の把握がされていない現状を知ることとなりました。

日本建築士会連合会は、第55回建築士全国大会・茨城に於いて「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会」を設立。そして、文化庁の文化審議会文化政策部会は今後の文化政策の提言の中で「東日本大震災から学ぶ、文化による地域と日本の再生」をまとめ、地域の文化財を総合的に把握、歴史的建造物の保存・活用などに携わる専門家ヘリテージマネージャーの人材養成が重要だとしました。

北海道建築士会は、昨年ヘリテージマネージャー特別委員会を設け会議を重ね、北海道教育委員会・北海道文化財保護協会・NPO法人歴史的地域資産研究機構との合同会議により、地域性を考慮したヘリテージマネージャー養成の制度・講座を担当することになりました。文化庁の文化遺産を活かした地域活性化事業の補助申請に応募して採択を待っています。

建築士会の取組みは、歴史的地域資産の調査と保存活用、普及啓発活動などがあります。建築士のネットワークを最大限に活用し、地域の活性化と社会貢献に取り組みたいと考えていますので、ヘリテージマネージャー養成講座の参加をお願いいたします。

**地域貢献活動センター委員会
地域貢献活動への
助成について**



委員長
久島 正嗣（札幌支部）

地域貢献活動センターは、平成21年6月に「まちづくり活動奨励制度事業」を引き継いで地域の住民と建築士が進める地域まちづくり活動を行うグループ、又は行おうとしているグループに対し、活動費の助成やまちづくりの情報および技術の提供を支援していく事を目的として設立されました。

住民の皆様が主体となって進められる地域づくりの専門家との協働作業において、価値観の多様化やライフスタイルの変化等により地域住民が自らの地域社会の存在をより重視するようになった昨今、その地域で活動する建築士の役割は大変大きなものとなっています。

地域の発意をまちづくりへ繋げていくために、居住環境に加えて景観や自然環境の保全・再生、歴史的文化遺産の保全・再生・活用、地域の防災・活性化、福祉環境整備等、営利を目的とせず活動を行う事によって、団体内部だけではなく、特定地域や周辺地域に実施効果があると認められる活動を支援しています。

これまでの5年間に17事業の応募が有り、内14事業に対して助成して参りました。

地域貢献活動は定型的なものではありません。皆様にふさわしい「地域貢献活動」を提案していただければ幸いです。



道本部の主な会議報告

- ◆第1回青年委員会
 (開催日) 平成26年1月25日(土)
 (議題) 1) 平成25年度事業報告・決算について
 2) 平成26年度事業計画・予算について

関係機関等会議出席状況 (2月)

- ◆北海道赤レンガ建築賞表彰式
 (開催日) 2月3日(月)
 (札幌) 高野会長出席
- ◆日本建築士会連合会北海道・東北ブロック会長会議
 (開催日) 2月13日(木)
 (札幌) 高野会長・鈴木専務理事出席
- ◆建築CPD運営会議
 (開催日) 2月24日(月)
 (東京) 高野会長出席
- ◆建設系CPD協議会運営委員会
 (開催日) 2月27日(木)
 (東京) 高野会長出席
- ◆全国建築士会職員会議
 (開催日) 2月28日(金)
 (東京) 鈴木専務理事出席

道本部の主な行事予定 (2月)

- ◆第1回 事業委員会
- ◆第1回 女性委員会
- ◆第1回 情報委員会
 (開催日) 2月1日(土)
- ◆第1回専攻建築士審査評議会
 (開催日) 2月25日(火)

2013高校生の「建築甲子園」審査結果
 奨励賞 北海道札幌工業高等学校

「建築甲子園」の審査結果が発表になりました。37都道府県から37点の応募があり、北海道の代表校「北海道札幌工業高等学校」の“路と空 市電が繋ぐ新たなカタチ”は、みごと奨励賞を受賞しました。審査総評等は、(公社)日本建築士会連合会のホームページをご覧ください。

一般社団法人 北海道建築士会 平成26年・27年度実行委員会

委員会	総務委員会	事業委員会	情報委員会	青年委員会	女性委員会
委員長	西岡 誠(札幌)	菟川 正人(旭川)	神田 光英(十勝)	針ヶ谷拓己(札幌)	本間 恵美(小樽)
副委員長	大原 公子(札幌) 鈴木 徹(十勝)	内海 純一(札幌) 中屋 通(恵庭)	斎藤 勝哉(旭川) 早川 陽子(小樽) 森 勝利(日高)	石塚 尚也(恵庭) 原 一彦(旭川)	工藤美智子(札幌) 金子ゆかり(釧路)
委員	高橋 幸二(日高) 山田 良彦(函館) 森谷 裕一(紋別) 岡田 光弘(旭川) 酒井 一誠(石狩)	中野 利也(旭川) 飯高 清嘉(十勝) 祐川 信明(留萌) 小松 憲一(室蘭)	高松 徹(上富良野) 熊谷 智(苫小牧) 柳山美保子(札幌)	小林 祐司(札幌) 福澤 誠(室蘭) 永井 裕史(苫小牧) 北野 学(名寄) 大浦 昌浩(宗谷) 山田 大樹(十勝) 鈴木 光彦(紋別)	東 道尾(札幌) 新海 直美(札幌) 吉田 幸恵(室蘭) 米本 一恵(旭川) 齊藤 裕美(旭川) 神部 絢子(空知) 溝口真由美(北見)
委員会	まちづくり委員会	被災地応急支援特別委員会	会員増強特別委員会	ヘリテージマネージャー特別委員会	地域貢献活動センター委員会
委員長	佐藤 芳則(苫小牧)	牛田 健一(札幌)	高野 壽世(札幌)	山内 一男(函館)	久島 正嗣(札幌)
副委員長	鈴木 利治(恵庭) 小川 光代(札幌)	池田 浩司(札幌) 小町 美穂(札幌)			
委員	山田 直登(空知) 滝田 祐人(士別) 若浜 崇(桧山) 三坂 和靖(北見)	美濃 輝之(十勝) 釜土 文男(旭川) 成田 勝宏(室蘭) 金谷 祐(小樽) 三嶋 克昭(日高)	吉木 隆(札幌) 鈴木 基伸(札幌) 庵 敏幸(北見) 石川 吉博(旭川) 山内 一男(函館) 西岡 誠(札幌) 針ヶ谷拓己(札幌) 本間 恵美(小樽)	久島 正嗣(札幌) 関川 修司(北広島) 小川 光代(札幌)	針ヶ谷拓己(札幌) 本間 恵美(小樽) 佐藤 芳則(苫小牧)

平成26年 一般社団法人北海道建築士会 定時総会(懇親会)について

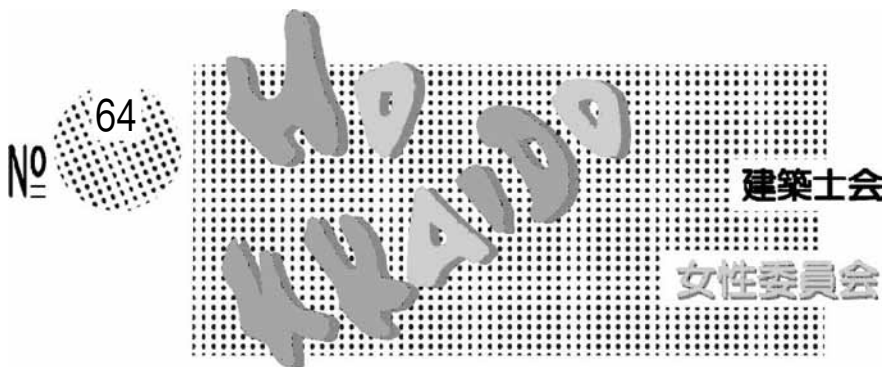
定時総会は、代議員により下記のとおり開催となりますが、一般会員のみなさまも懇親会のみ参加できますので、懇親会への参加希望の方は、(一社)北海道建築士会本部事務局 (011-251-6076) へお問合せください。

平成26年 定時総会 懇親会

会 場：ホテルポールスター札幌2F「コンチェルト」(札幌市中央区北4条西6丁目 TEL 011-241-9111)
 時 間：17:30~19:30
 会 費：5,000円(当日会場で申し受けます。)

〈平成26年(一社)北海道建築士会定時総会〉

開催日：平成26年3月28日(金)



平成25年に行われた『建築士による家庭科住教育出張講座』について、3名より報告します。

北海道旭川凌雲高等学校報告

旭川支部 川田 朱

平成25年9月2日、北海道旭川凌雲高等学校にて道の委託事業で、高校生を対象にした「住」を考える講座が開催され、本部から3名、旭川支部から8名がサポーターとして参加しました。



初めての一人暮らしをテーマに講義と実習。実習では自分らしい間取りをプランニングしてもらいます。今どきの高校生ってどんな感じなのかなあと、こちらの方が緊張していましたが、先生の話や講師の話真剣に聞いている姿を見ると、なんだかうれしくて、逆に緊張をほぐされていました。高校3年生になると近い将来の一人暮らしを真剣に考えていて驚きました。又、個性もそれぞれにうまく活かしたプランニングには、こんな生活スタイルもあるんだなあ……と、勉強させてもらいました。自分らしく生活できることで生きている事に自信をもってもらえたら嬉しいですね。機会があれば、また参加したい事業です。

渡島・檜山地区家庭科部会 研究協議会報告

函館支部 岩崎 美乃

平成25年10月25日13時より函館商業高等学校で、渡島・檜山地区高等学校家庭科部会研究協議会の、家庭科住教育出張講座が開催されました。今回は直接生徒ではなく、教える側の家庭科の先生を対象にしています。函館管内の12の学校から14名の参加です。

生徒が体験する前に先生自らが、どんなことをするのか体験したいという要望からの開催です。

女性委員の工藤さん、早川さん、吉田さんが講師として来函され、函館支部からも原さん、藤原さん、私、事務局の小野寺さんがサポートとして参加しました。

最初に工藤さんがパワーポイントを使ってワークのポイントの説明をし、マンション選びから始まりました。自然環境、眺望、買い物や銀行などの生活を優先するのか、または地震などの自然災害を考慮するのか、一人一人の価値観が判断の基準になります。それから、部屋の中のゾーニングをしてから、間仕切りや窓の形や大きさを決め、家具を配置していきます。先生たちなので、サクサクとワークは進みますが、生徒だったら、短時間でこんなにうまくいくのだろうかという一抹の不安もよぎりました。(汗)

アンケートの中に、住宅の専門家ではない悩みや不安もあり、社会貢献の一環として、建築士としてのサポートが求められていることを強く感じました。

北海道白老東高等学校報告

札幌支部 往田 協子

平成25年12月10日火曜日、雨。北海道白老東高等学校で住教育授業が行われ、北海道建築士会から12名の建築士が担当しました。

対象クラスは2年生3クラス全112名。全員必修授業でした。

午前中C組37名の授業を実施。6名が指導を担当、午後からの授業担当の他の6名も見学、グループ指導にも参加しました。

テーマは「私らしい住まい」の設計。初めてのひとり暮らしを想定し間取りや家具の配置を考えるというもの。実際に自己責任による暮らしが近づいている高校生に関心を持って欲しいテーマです。

見学で参加した午前中のクラス。寸法感覚に悩む生徒は多かったですが、それは狙いでもあり比較的いい感触でした。生徒達は素直に住まいの知識を吸収し自由な発想でレイアウトを考えていました。

A組とB組別々の教室で行った午後の授業。グループ指導で声を掛けるタイミングに苦労しました。質問や確認を求める生徒がいる一方、黙々と質問なく作業を進める生徒もいて、建築的アドバイスのきっかけを掴むのに苦労しました。短い間でも瞬時に生徒と信頼関係を築いていく必要性を強く感じ、私の次回以降の課題になりました。

全ての人に必要な住まい。その住まいをいかに気持ち良く効率的なものにするかを早い段階から考えて欲しい。私達建築士の思いです。私自身大切にしたい思いでもあり次年度以降もいい関わり合い方をしたいと思います。



札幌支部

委員会の活性化
と会員増強

副支部長

池田 浩司



札幌支部では総務委員会を始め、まちづくり委員会、事業委員会、交流委員会、情報委員会、専攻建築士委員会そして青年委員会と7つの委員会がそれぞれの事業方針の中、活動を行ってきております。

委員会登録者数も一委員会8名から多い委員会では20名程度、総数で約80名という状況です。この数は札幌支部全会員数約800名強から考えると、その10%程度です。正確な統計はわかりませんが建築士資格取得者の内建築士会入会率は20~30%と想定すると委員会活動者は2~3%という状況です。私は少なくとも今の倍である5%程度の活動者により細やかな活動を行い、会員の方は勿論会員外の方がより多く参画でき或いは参画しやすい活動を企画していくことが会員増強への一手法につながるのではと思っております。

会員増強論は以前よりいろいろと議論されてきています。札幌支部でも総務委員会が主管となり各委員会内で議論を深め、数多くのアイデア抽出をしているところです。会員増強と言っても札幌支部と他支部とでは置かれた状況や生い立ちも違います。また、近年の人口減少や高齢化社会が進む強い向かい風の中では、はっきり言って会員増強につながる特效薬などはないかもしれません。

しかしながら、一般の方が目を向けてくれて、かつ会員が有意義に思える活動をすることが大切です。これらの活動のため会員の方やこれから会員になろうとする方は是非、札幌支部の各委員会へ参加していただきたいと思っております。いつでも大歓迎し、お待ちしております。

古平支部

泊原発事故
避難訓練

支部長

堀江 昭夫



平成25年10月8日、震度6強の地震により、泊原子力発電所で重大な事故が発生し、放射性物質が飛散したとの想定で訓練に参加しました。

今回の訓練では、原発30キロ圏内の13町村が参加し、古平町からは、100名近くの方が参加し、自衛隊の50人乗り大型ヘリコプター、大型バス、ワゴン車8台で、避難先の小樽市フェリーターミナルへ向かいました。

避難先では、救護所で全員が衣服、所持品等の放射性物質の付着状況を調べるスクリーニング検査を受け、その後一時滞在場所の小樽市市民会館へ移動し、長期避難の滞在先となる、ホテル情報等の指示を受け帰町しました。

訓練では、自家用車で避難先へ向かう事を想定して、実施され、小樽へ向かう途中にあるコンビニエンスストアも連携し、交通渋滞も予想されることから水、パン等の補給、北海道、警察等からの災害、交通情報等もコンビニで把握出来るようにしていました。

私は、ワゴン車で避難しましたが、渋滞等はなくスムーズに移動できました。各町村は、小樽、札幌方面へと避難しましたが、現実となったら風向き次第では何処へ避難したら良いのか分かりません。



ヘリコプターで避難する参加者
=中島スポレク広場

十勝支部

ブロック活動に
参加しよう！

青年委員

山田 大樹



平成25年11月30日、帯広市南コミュニティセンターで「第3回道東ブロック協議会」が開催され、十勝支部を含む5支部から20名の参加がありました。

協議会では25年度の各支部事業報告やブロックの来年度の活動計画を協議しました。協議会終了後は、日本甜菜製糖(株)の「ビート資料館」を見学しました。ビートは砂糖の原料となる農作物で、寒冷地で栽培が適していることから北海道各地で生産が始まり、十勝でも主要な農産物のひとつです。同社の製糖所は北海道に3か所あり、中でも十勝の芽室製糖所は東洋一の大規模工場とのことです。「ビート資料館」は普段は見学者が少ないようで、建築士会が団体で来たことに感激した資料館のガイドの方が熱心に説明をしてくれて、予定時間を大幅に過ぎてしまいました。見学後はボーリング場へ移動し各支部混合チームを作って点数を競いました。各チーム大接戦で大いに盛り上がり、その勢いで懇親会へ移動し、夜遅くまで帯広の夜を楽しみました。

ブロック活動に参加すると他支部の会員と交流ができ活動の幅や人脈が広がります。みなさんもぜひブロック活動にご参加ください！



CPD認定プログラム（1月認定）

- ◆第24回 旭川建築作品発表会
 《日程及び会場》平成26年2月13日
 18:00～20:00
 旭川市神楽公民館（旭川市）
 《単位数》2単位
- ◆高齢者等住宅改善講演会
 《日程及び会場》平成26年2月15日
 10:00～12:00
 旭川市障害者福祉センターおびった（旭川市）
 《単位数》2単位
- ◆高齢者等住宅改善実務者研修会
 《日程及び会場》平成26年2月15日
 13:00～17:00
 旭川市障害者福祉センターおびった（旭川市）
 《単位数》4単位
 上記発表会、講習会について
 《問合せ先》旭川市都市建築部 TEL 0166-25-8597
- ◆建設工事に伴う労働災害・火災類事故防止講習会
 《日程及び会場》平成26年2月18日
 13:30～17:00
 北海道建設会館9階（札幌市）
 《単位数》3単位
 《問合せ先》(一社)日本建設業連合会
 北海道支部 TEL 011-261-6245
- ◆北海道公共建築設計セミナー（第2回）
 《日程及び会場》平成26年3月13日
 14:30～16:30
 札幌第1合同庁舎（札幌市）
 《単位数》2単位
 《問合せ先》北海道開発局 TEL 011-709-2311（内線5742）
- ◆建築物の天井脱落防止対策講習会
 《日程及び会場》平成26年2月18日
 13:00～16:40
 北海道自治労会館（札幌市）
 《単位数》3単位
 《問合せ先》(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076
- ◆技術講習会
 《日程及び会場》平成26年2月17日
 14:00～17:00
 ホテル黒部（北見市）
 《単位数》3単位
 《問合せ先》(一社)北海道建築士会
 遠軽支部 TEL 01586-2-2181
- ◆第57回（平成25年度）北海道開発技術研究発表会
 《日程及び会場》平成26年2月20日
 13:00～14:10
 北海道開発局研修センター（札幌市）
 《単位数》1単位
 《問合せ先》北海道開発局 TEL 011-709-2311（内線5782）
- ◆北海道の建築技術向上のための講習会
 《日程及び会場》平成26年3月4日
 10:00～15:00
 札幌国際ビル（札幌市）
 《単位数》4単位
 《問合せ先》(一社)北海道建設業協会 TEL 011-261-6185



建築物の天井脱落対策講習会

～法施行1ヶ月前講習会～

国土交通省では、天井の脱落対策に係る基準を定め、新築建築物等への適合を義務付けとした建築基準法施行令及び関連省令を改正（平成25年8月5日公布）し、平成26年4月1日に施行されます。

これに先立ち、同省では、天井脱落対策に係る一連の技術基準の逐条解説を行い関連資料と合わせ「建築物の天井脱落対策に係る技術基準解説書」を作成しました。今回、建築士会では、同技術基準解説書の内容等に関して国土交通省担当官の説明によるDVD講習を開催いたします。

多くの建築士及び建築技術者の皆様におかれましては、この機会に受講いただきますようご案内いたします。

《開催日》平成26年2月18日（火）

13:00～16:40

《受講料》建築士会会員 3,000円

会員外 5,000円

《会場》北海道自治労会館 4階中ホール
 （札幌市北区北6条西7丁目）

《定員》160名（定員になり次第締切りとします）

《申込方法》

参加申込書（ホームページよりダウンロード）にご記入の上、受講料を添えて、本部事務局へお申込みください。現金書留でのお申込みもできますので、本部事務局（011-251-6076）までお問合せいただくか北海道建築士会ホームページをご覧ください。

※参加申込書ダウンロード及び詳細は↓

北海道建築士会HP（<http://www.h-ab.com/>）

図書案内

資産価値の高い建築を提供するためのポイントと解説

- ◎第56回建築技術講習会テキスト
- ◎A4判：88頁 ◎定価：2,625円
- ◎発行日：2013年刊
- ◎発行：(一社)北海道建築士会

編集後記

各地で大雪のニュースを目にする時期となりました。皆様の地方は如何でしょうか。除雪に追われる方も多いのではないのでしょうか。さて今月はトピックとして女性委員会の事業であります、北海道委託業務の報告、特集として各実行委員長の挨拶、平成26・27年度実行委員会組織図を掲載しています。2年間の委員会抱負をご一読下さい。又、定時総会 懇親会の案内もごさいますので、是非ともご参加いただきますよう宜しくお願い致します。

情報委員会 神田 光英

情報委員会委員長／神田 光英
 副委員長／齋藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利
 委員／高松 徹・熊谷 智・柳山美保子

北海道建築士 No.198号

印刷 平成26年1月／発行 平成26年2月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番